

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075300204		
法人名	医療法人 社団 親和会		
事業所名	グループホーム きんもくせい		
所在地	〒820-1103 福岡県鞍手郡小竹町勝野4202番地の7 TEL 09496-2-8882		
自己評価作成日	平成 23年05月19日	評価結果確定日	平成23年06月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年06月09日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者一人一人の生活ペースを重要視し、一日をゆったりと過ごすことが出来るようにしている。また、季節ごとの行事を計画して、利用者全員が気分転換が出来て楽しんでいただけるように工夫している。2ヶ月ごとの運営推進会議で、利用者の方々の毎日の生活ぶりや行事等の報告を行い、ホーム行事や地域行事の情報提供等がなされ、サービスの向上に活かされている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>山の緑に囲まれ、鶯の鳴き声が聞こえる自然環境の中に、老健施設併設のグループホーム きんもくせいがある。手入れの行き届いた花壇を見ながら、玄関を入ると、利用者と職員の手芸、記念写真等を廊下に掲示し、家庭的な雰囲気を出している。管理者、職員は、利用者や家族の思いを大切に、尊厳のある暮らしが出来るように、全員で頑張っている。特に、経営母体が医療法人で、24時間の医療連携体制を確立し、老健施設と協力し、利用者がいつまでも安心して暮らせる様子は、家族にとっても心強いものがある。また、運営推進会議を通して、地域の委員や、家族と信頼関係を築き、地域やホーム行事に相互に参加し、活発な交流が始まっている。今後は、利用者の心身機能の維持、向上を目指し、利用者一人ひとりに合わせた自立支援に向けた取り組みを検討している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(ひまわり棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のホームカンファレンスを行い、その都度、職員が声に出して理念を読み上げ、理念の大切さを再確認している。	利用者が、地域の人々と交流を図りながらその人らしく尊厳を持って生活していく「ゆっくり、のんびり、そっと寄り添いながら支援する」ことを理念に掲げ、会議では必ず唱和して、理念を共有し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事等に参加している。週1回ボランティアの方に来ていただいて、習字やカルタをいただいている。	郊外にあるため、近隣に住宅が少なく、地域との付き合いが難しい中で、利用者と職員が町の行事や、いきいきサロン等に参加したり、習字の先生や傾聴ボランティアなどの協力で、交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場や福祉協議会、いきいきサロン等へ参加して地域の高齢者の役に立てるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、利用者の状態やサービスの取り組み内容を報告し、意見交換やアドバイスを受け、サービス向上に活かしている。	会議は、家族、自治会長、住民代表、行政職員、ホーム職員が参加し、2ヶ月毎に開催し、参加者による活発な質疑応答で充実した会議となっている。また、出された意見、要望はホームで検討し、運営に出来るだけ反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時に福祉担当者と意見交換や相談にのってもらったりしている。また、町職員の方にも運営推進会議に参加していただいている。	運営推進会議に、行政職員が積極的に参加し、情報や意見を出してもらい、町役場にホームの新聞を置かせてもらおう等、具体的な協力関係を確立し、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に勉強をする事で言葉かけなども含め、問題になる行為をしないように努めており、身体拘束はしていない。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、外部、内部の研修に職員が参加している。職員は、身体拘束が利用者にも与える弊害を理解し、日々身体拘束の無いケアに努め、利用者や家族が安心できるよう努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き、常に介護時の対応に注意して言葉かけ等にも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会にて得た資料を活用し、スタッフが勉強し、成年後見制度の手引きを玄関前に閲覧出来るようにしている。	現在、制度の利用者がおられ、管理者と職員は、外部、内部の研修を通じ、権利擁護に関する制度を理解し、利用者や家族が活用する時の説明や、橋渡しの窓口となる体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載した内容を契約時に説明し、解からない点などは再度説明して理解・納得した上で契約の同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置したり、家族へこちらから働きかけ、意見等が発言されやすいような雰囲気作りをしている。	運営推進会議に家族の参加が多く、意見や要望などを聴き、家族の来訪時や電話などと合わせて出来るだけ家族の要望を採り入れ、利用者が安心して暮らすことできるように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホームカンファレンスを行い、職員から意見や提案、問題点などを聞く機会を設けている。	職員会議を毎月開催し、会議では活発に意見が出されている。日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気作りを心がけ、一人ひとりの意見を尊重し、運営面で活かせるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会・ホーム内での勉強会を開催し、職員が各自向上心を持って働けるよう努力している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	そのようにしている。	職員の採用にあたっては、年齢、性別の制限は無く、人柄や意欲を重視している。事業所で働く職員に対しては、交代で昼休みをとったり、月3回の希望休の配慮など、生き生きと働ける環境を整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に入居者に対して人権を尊重するように入れており、その都度指導している。	外部の人権研修に参加し、内部の勉強会で人権に対する意識を共有し、利用者の尊厳を守り、穏やかで楽しい暮らしが出来る支援をしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて外部の研修へ参加し、その都度伝達講習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小竹町のグループホームの集いに参加して意見交換し、福岡県グループホーム協議会の研究発表等へ参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に困っていることや不安がないか話を聞く機会を出来るだけ多く持ち、対応できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や契約時、家族が困っていること、不安な事などを管理者を中心に話しを聞く機会をつくり、対応出来るように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を伺い、今利用しているサービスの担当者やかかりつけの病院などから情報や意見を聞き、どのサービスが良いか見極め対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が過ごしてきた人生を大切に喜ぶ哀楽を共にし、本人から色々なことを学んだり、力になれるよう努め、安心できる関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を密にして利用者の細やかな事や気付いたことを伝えたり、家族の不安な事や要望などを伺い、共に支え合う関係をつくっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿えるよう、外出の機会を設けるなど、馴染みの人や場所との関係が続けられ、また、関係が途切れず安心できるよう支援している。	利用者の意向を把握し、家族と相談して馴染みの場所や人との関係がいつまでも継続できるよう支援している。また、馴染みの利用者との交流、地域ボランティアの人達とも継続的に交流している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく安心して施設で生活できるように、共通の趣味や話しが楽しく出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	疾病により入院されたりすると面会に行き、状態把握などを行い、利用者ご家族との付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方などの情報を集め、利用者の希望に沿った生活が出来るように努めている。	職員の異動が少なく、永年勤続者が多いため利用者とは馴染みの関係であり、利用者一人ひとりの習慣や嗜好などを把握している。職員は、意向の表出の出来ない利用者に対しては、家族と相談しながら利用者にとって最善の方法で介護できるよう努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族より情報を収集してセンター方式を活用し、サービス経過に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方をセンター方式の記入シートに書き込めるように本人やご家族に伺うことや確認することで情報を集め、本人の状態が総合的に把握出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心にご家族に話を聞いたり、他の職員とカンファレンスを行い、より良く暮らせるように介護計画を作成している。又、3ヶ月毎の評価を行い、新たな問題等は必要時話し合い、その都度介護計画を作成する。	介護計画は、利用者や家族の意向、職員の気づきや意見を収集し3ヶ月毎に作成し、さらに、かかりつけ医、家族等、関係者の意見、要望も加え、定期的な見直しを行い、利用者の状態変化に合わせ、家族と相談しながら随時見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに沿った内容等を個別記録用紙に記入し、情報が共有できるよう活用し、実践や介護計画に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に応じ、介護保険の更新手続きや病院受診などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じてボランティアの協力にて習字をしたり、読み聞かせの訪問がある。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿えるよう医療機関の確認を行い、対応している。場合により、協力医療機関への受診や月2回の往診による支援を行っている。	利用者、家族の希望を聞き、家族と協力しながらかかりつけ医の受診を支援している。また、看護師である管理者、提携医による月2回の往診など、利用者が安心して暮らし続けるための医療体制を整えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や協力病院の看護師と相談しながら支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努め対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、利用者、家族の希望を聴き、事業所としての方針を説明、共有しながら、出来る限り長い時間ホームで暮らしていただけるよう支援している。	重度化に伴い、関係者と段階的に話し合いを重ね、利用者にとってより良い方法を整えて支援している。また、「利用者が、重度化した場合における対応指針」を作成し、事業所で出来る事、出来ない事を明記し家族に説明のうえ同意を得ている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応に備えてマニュアルを作成している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内では消防署の協力の下、訓練を行っているが、地域の人々への働きかけは出来ていない。	年2回、消防署の指導の下、昼夜を想定した避難訓練を行っている。家族への協力の呼びかけや、他のグループホームと連携をとる計画がある。	いざという時に慌てないように、同法人併設の老健との協力体制を確立するとともに、非常災害時に備えての飲料水、非常食の備蓄に取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には常に気をつけ、記録等の個人情報の取扱いは問題が起きないようにマニュアルに沿って対応している。	職員は、利用者一人ひとりの自主性を尊重し、誇りを損ねない言葉かけに配慮し、個々に合わせた介護サービスを実践している。また、個人情報の取り扱い、人目のつかない場所で大切に保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに優しく耳を傾け、話を聞くことを心がけ、自分で決め、納得できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースに合わせ、希望に沿うことが出来るよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選んでいただいて着用してもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、温かい出来立てを美味しく食して頂いている。下膳等は職員と一緒にしてもらうよう心がけている。	利用者が、楽しみにしている食事は、ベテラン職員が、新鮮な食材で、栄養のバランスを考えて作り、利用者職員が、同じテーブルで、楽しく会話をしながら食べる風景は、微笑ましく、温かいものがある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者のものを使用し、カロリー計算して栄養バランスにも配慮出来ている。3食の食事時のお茶と10時・15時に好みの飲み物を準備して水分量に気をつけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人一人に合った歯磨きを必ずしてもらっている。義歯の洗浄を声かけしたり、介助したりしている。義歯はポリドントに漬けて、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレで排泄が出来るよう支援して、清潔に努めている。	紙おむつや車いす利用の方が、入居後は布パンツで歩けるようになられ、排泄の自立に繋がる要因になっている。また、職員は利用者の排泄パターンを、細かく把握し、優しく声かけし、排泄の自立に向けた取り組みをしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より便秘の予防に努め、水分補給を行うことや飲食物の工夫をしたり、身体を動かすように散歩などを行い、必要時、腹部マッサージも行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿える入浴が出来るようにしている。	入浴は平均週3回であるが毎日でも入浴可能であり、利用者の希望に柔軟に対応出来るようにしている。また、入浴を拒否される方には、無理強いせず、穏やかに、説得したり、時間をおいて、入浴が楽しく出来るように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて、自由に昼寝が出来るようにしたり、夜眠れない方には主治医と相談して内服で対応したりして工夫している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で分包されたものの確認を行い、薬の重要性を把握して服薬時の注意を確実にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の楽しみごと・したいことを把握して、個別に気晴らしなどが出来るように対応している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿って買物やドライブ等出来るようにしている。	ホームの周りは自然が豊かで、利用者はホーム玄関入口のベンチに座って鳥のさえずりを聴くなど四季を五感で感じる事が出来る。また、散歩やドライブ、お花見、地域の行事等、出来るだけ日常的に外に出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力に応じて、お金を所持して使えるように家族と共に協力して支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の公衆電話が利用できるよう手助けしたり、年賀状や手紙のやり取りが出来るよう、本人の希望に沿えるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に季節の花を飾ったり、行事の写真や壁に貼るなどして工夫し、居心地良く過ごせるようにしている。	ホーム玄関前には、水を張ったメダカが泳ぐ大きな鉢に、紫陽花の花が投げ入れてあり、訪れる人を温かく迎え入れ、もてなしの心を感じることができる。また、中に入ると高い天井、広い窓からの十分な彩光で明るく、開放的なリビングは居心地がよく、菜園には胡瓜やスイカが植えられ、その成長は利用者の大きな楽しみとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳を置き、利用者がテレビを観たり、話をして過ごしたり、廊下の椅子に一人で静かに過ごせるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使っていた家具や使い慣れたものを持ち込めるように配慮して、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は広く、清潔で、掃きだし窓で明るく、カーテン越しの光で鉢植えの花を育てたり、本人の好きな物、馴染みの物を持ち込んでもらうなど、利用者が日々の暮らしを安心して、居心地良く暮らせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下全体に手すりを取り付け、安全に移動できるように工夫している。		